

06 函館子ども歌舞伎

幼さを感じさせない大人顔負けの名演技

市民参加による正月恒例の歌舞伎公演「初春巴港賑(はつはるともえのにぎわい)」で、1989(平成元)年に子供達が初演を飾ったのが契機となり、一座は発足しました。函館在住の2代目・市川団四郎さんが主宰を務め、振り付けを指導。最年少だと就学前に初舞台を踏む子供がおり、外見にあどけなさを残しながらも、堂々とした立ち姿やせりふ回しには年齢を全く感じさせません。子供達が舞台に立って本格的に演技する劇団としては全国的にも珍しく、目の前で繰り上げられる光景は圧巻です。活躍の場は国内にとどまらず、海外にも広がっています。



問い合わせ先	市川団四郎主宰
電話番号	0138-31-7356
FAX番号	0138-31-7356
編成	出演者、裏方 約15~25人
出演時間	1ステージ12分~
出演料	100,000円~
備考	出演時間や出演料は 内容により変動します。



恒例となっている演目「白浪五人男(しらなみごにおとこ)」。ストーリーは、実在 または架空の人物である盗賊5人が、強盗や恐喝など数々の悪事を働いた末、勢ぞろいした稲瀬川でついには追い詰められるといった内容です。最初は子供ならではの愛くるしさに、観客からは思わず笑みがこぼれます。しかし、大人顔負けの迫真の演技を目の当たりにすると、話が進むにつれてくぎ付けとなり、最後は盛大な拍手と歓声が鳴り止みません。

本番前の楽屋風景。会場入りするまでは、一般の子供と何ら変わらない風貌や振る舞いながら、独特の化粧、本番用衣装への着替えを進めていくうちに、表情は引き締まり、その出で立ちは一変します。極度の緊張感に包まれる中、出演者個々の目は真剣そのもので、楽屋の所々では、出番ぎりぎりまで細部にわたるセリフや演技をチェックする姿が見受けられます。いざ舞台に向かう際は、絶対に成功させるといった自信すら感じ取れます。